

令和元年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号 **7 - 1 - 7**

事務事業名	姉妹交流補助事業				担当課係	学校課
総合計画上の位置付け	政策	②ひとりひとりが輝けるまちづくり			記入担当者	西山 稔江
	基本目標	6. 心豊かなひとづくり			内線等	32-3811
	施策	6-1 教育の充実と文化の振興			E-mail	gakkou@city.komatushima.i-tokushima.jp
	基本方針	6-1-1 就学前・学校教育の充実				
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	経常事業
事業予算費目	款	10	教育費	項	1	教育総務費
	目	3	教育指導費	事業	10	姉妹校交流補助事業
開始年度	平成5	年度	根拠法令・要綱等 小松島市補助金等の交付に関する規則			

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 小松島市と本別町勇足小学校の児童・保護者・教職員による交流					
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 立江小学校と本別町勇足小学校の子どもたちとの交流学習において、広い友情の心を育むことで、心豊かな児童の育成をめざす。					
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 小松島市と本別町勇足小学校の児童・保護者・教職員などが、隔年で互いの地を訪問することによる交流事業を通して、それぞれの地域の自然・文化・伝統に直接触れ、それらについて学ぶ機会を通して、親睦を深めている。					
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 当時小松島市議会議員であった田村直一氏が学校交流姉妹縁組を提案したことを契機に、平成3年より、立江小学校と勇足小学校の交流が始まり、平成5年には姉妹校の締結がなされた。なお、令和元年度は29回目の交流となった。					

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	単位	目標	H30	R1	R2	R3	目標年度 目標値	子どもたちが交流事業の活動を通して、互いの地域の良さについて学んだことや、育んだ友情等については、日常の学校生活の中に生きており、その成果を指標化することは困難である。
			実績	達成度				
活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H30	R1	R2	R3	
	参加児童数	人	計画					
			実績	102	24			
	参加教職員・保護者	人	計画					
			実績	63	6			
			計画					
		実績						
		計画						
		実績						

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		H30年度決算	R1年度決算	R1年度予算	R2年度予算	
		全体コスト	A 直接事業費	300,000	600,000	600,000
関連事業費	財源内訳	国県支出金				
		地方債				
		利用者負担				
		一般財源	300,000	600,000		
	B 人件費 ①×②	100,657	99,170			
	職員平均人件費①	10,065,703	9,917,025			
	従事した割合②/人	0.01	0.01			
	A + B	400,657	699,170			
単位コスト	活動指標の説明		参加人数165名（来訪）	参加人数30名（訪問）		備考
	活動指標 1 単位当たりコスト		2,428	23,306		平成30年4月1日現在 人口38,156人
	市民一人あたりのコスト		11	18		平成31年4月1日現在 人口37,795人

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 徳島県及び、県内各市町村において、国際交流をはじめとした地域間交流を推進しており、今後更に人口減少社会が加速的に進み、地域間での交流の必要性は、一段と高くなっていくと考えられる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 学校間や地域を含めた本事業については特色のある取り組みであり、今後も保護者を含めた地域の住民は、未来を担う子どもたちの育成のため、交流事業の継続を望んでいる。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	交流活動を推進することは、互いの地域振興にとり、重要なことであると考えられる。また、郷土の良さや素晴らしさを学び伝承することで、広い視野に立って行動できる人間の育成にも効果的である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	小松島市と友好都市の締結を行っている本別町の過去の歴史を振り返ると、本事業は交流の大きな柱となっており、市の本事業に対する補助金の支出については妥当である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいか、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	両校の保護者や教職員、地域住民の方々等の熱心な取り組みに支えられ、本事業は継承されている。本市においても、児童が本別町を訪れる際は、交通費の一部を補助するなど、比較的効率よく、運用ができています。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	小松島市と本別町の関係は、明治30(1897)年に旧那賀郡立江村の人々が入植したことを契機とし、その友好の歴史は、継承されている。また、本事業が継続されることにより、行政職員の相互派遣研修や民間の交流へと広がりを見せている事となっている。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	地域間交流は、他の地域の良さを学ぶことで、自分たちが住んでいる地域を改めて見つめ直し、その良さを再発見する機会となっている。交流の活動を通じて、郷土を愛し、未来を切り拓いていくことができる人材の育成にもつながると考えられる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	両校の保護者や教職員、地域住民の方々等の熱心な取り組みにより本事業は継承されている。今後も引き続き交流の意義や意味、その効果等について考え、小松島市と本別町の更なる発展につながるよう推進していくべきである。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	本事業を継続することは、両市の友好関係を深めるとともに、郷土への誇りと広い視野をもち、将来において国際社会でも活躍できる人材を育成する事につながっている。今後も本事業の継続が望まれる。
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	地域間の交流という、普段の学校生活とは違う学習環境において、体験学習などを通じ、互いの地域の歴史や文化・自然などから様々なことを学ぶ事ができている。更に、集団生活を送る上での公衆道徳についても学ぶことができ、本事業の継続は児童のみならず、保護者や地域の人々にとっても必要不可欠の事業となっている。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	